

## 2020 年度科研費申請補助事業制度に関するアンケート

科学研究費事業等に採択されなかったものの、A 評価とされた研究に関し、学内研究費を 1 年間で原則 1 件あたり上限 10～20 万円を補助する制度を平成 30 年度より整備しています。助成事業を開始して3年  
間が経過しましたので、この制度に関して見直しなど検討を行いたいと考えています。以下のアンケート  
のご協力をお願いいたします。記載したくない場合は空欄で結構です。

1. 科研費申請補助事業に申請しましたか。

☐ 申請した      ☒ 申請しなかった

2. 「申請しなかった方」への質問です。申請しなかった理由を教えてください。

・申請が受理とならない理由がお金で解決できることではないから。

・特に必要性を感じなかったため

・書類作成にかかる時間を惜しんだため。

3. 「申請した方」への質問です。助成を受けて、申請手続き、予算の使用、報告手続きなどでご意見があれば記載してください。

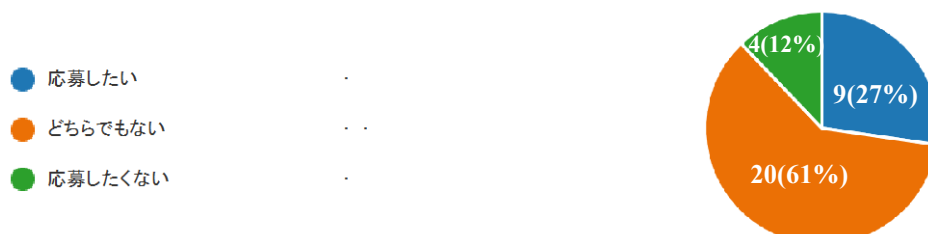
4. その他、この助成に関して、ご意見があれば自由にお書きください。また、他の研究助成制度の希望などがありましたら、記載してください。

・提出書類を簡素化してほしい。

「重点研究・教育」及び若手・大学院生奨励研究助成事業の申請への障壁 アンケート結果

アンケート回答者数 33 名（回収率 55.9%）

1. 今後、重点研究・教育助成事業及び若手・大学院生奨励研究助成事業に応募したいですか？



2. 1.の理由を自由に記載してください

<応募したい>

- ・ 若手に向けた研究事業があることはありがたい
- ・ 取り組んでみたいテーマがあるため
- ・ 高齢者領域等のケアマネジメントや地域づくりについて県内の臨地実践研究を行いたい
- ・ 研究を積み重ねることで発展する
- ・ 研究を進めていくにあたっての示唆を得るチャンスだと考えるから
- ・ 担当した卒業研究の 1-3 年生への公開方法、学術集会での発表、何らかの形での社会化を事業にあげたい
- ・ 大学院での研究に使用できるのであれば応募したいと思います
- ・ 大学の特色を浮き彫りにする研究をする必要があると思う
- ・ 評価測定機器が高額なため、応募したいと考えている

<どちらでもない>

- ・ 事業について、よく理解ができていない、この助成金に関してそもそもよくわかっていない
- ・ 自分にできるかどうかの物理的・精神的余裕がないため迷いがある
- ・ 時間的余裕があれば
- ・ 応募したいが、特に令和 4 年度は多忙となる予定であり進めるのに自信がない
- ・ 助成事業の対象となるような研究を現在は行っていないが、今後のことはわからないため
- ・ 自己的研究的関心事がこの事業の狙いと一致しているか熟考できていないため
- ・ 今、事業に合致するテーマが思いつかない
- ・ 現在、研究の予定がないため
- ・ 応募したいテーマがまだないので
- ・ 必要があれば活用させていただきたい
- ・ 今は、応募できる研究の段階ではないので、いずれ挑戦したいと思っています
- ・ 今後検討したい
- ・ 個人的には必要性を感じません。組織的な研究が必要になったら重点研究・教育助成事業のほう

に応募するかもしれません

- ・ 科研費での研究に取り組んでいるため
- ・ 科研費、地域貢献事業予算があるため必要でない
- ・ いつか応募したいかもしれないけど、来年度はまだ科研のプロジェクトが終わっていない
- ・ 以前応募したことがあるため
- ・ 現在進行中ですので、終了後に検討したいと思います
- ・ そもそもその対象者ではないと考えるから

<応募したくない>

- ・ 2年後に定年なので。(研究のお手伝いできることがあれば、お手伝いは可能です)
- ・ 現在取り組んでいる研究に対し、研究費は十分にある
- ・ 令和4年度まで科研に取り組んでいるので、複数の研究に取り組む余裕はない
- ・ 書類作成や手続きの煩雑さ

### 3. 重点研究・教育助成事業及び若手・大学院生奨励研究助成事業への応募の障壁となっているものがあれば自由に記載してください

- ・ 事業について、理解を深めたいと思います
- ・ common をみてもどこにその詳細があるのかわからない
- ・ 事業への応募の内容や手順など、どのように進めていけばよいのかわかっていない
- ・ 重点研究、教育助成事業に対してどのような事業なのかわからない。わかりやすく説明を受けたことがない
- ・ 日々の業務で精一杯である
- ・ 研究時間が取れない
- ・ 業務量が多く、研究時間の確保が難しい
- ・ 日々の業務量の多さ
- ・ 研究時間の確保困難
- ・ 研究に費やす時間の確保
- ・ なかなか研究の時間を取る 것이 難しい
- ・ 研究に使える時間の確保とライフワークバランスの調整
- ・ 時間の確保、領域を超えて共同研究ができるとよいが、領域を超えるとさらに時間を合わせるのが困難となる
- ・ 特にない。雑多な用が多く、応募の申請書を作成する時間が作れなかった
- ・ 研究事業（科研費を含む）への応募・採択されても、研究費や給与には反映されず、研究時間の確保がとても問題で実施が難しい状況
- ・ 申請する際の研究計画書の記載する際の、研究目的と方法の整合性や、年度内での実施可能性の十分な検討
- ・ 令和4年度分に関しては、思考がまとまらなかった。複数の先生方に相談して、ようやく重点研究・教育助成事業に思い至ったときには、〆切が過ぎていた
- ・ 十分な研究能力がありません
- ・ 必ず修正があること

- ・ 外部資金の獲得のための申請書作成の練習のためにはよいと思いますが、申請書作成の煩雑さは障壁ではあると思います。研究成果公表のための論文投稿費や学会発表参加費・旅費などの助成など、絞って使いやすい助成制度があるとありがたいです
- ・ 若手奨励研究に関しては、研究期間が1年というのは短いと感じる
- ・ 新型コロナウイルスの影響で実践現場に赴くことができない。調査もできない
- ・ 業績なども、研究を重視しないのであれば、大学の特性として教育への力を入れていることなどを掲げ、研究を推進する必要はないのではないかと感じてしまうことがあります。研究に関して自己研鑽の関を出ていません